

## 基 調 報 告

第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会

研究部長 中西敏樹

### 《はじめに》

へき地複式教育に携わる私たちにとって、長年の実践によって積み上げられた財産は、時代が変わっても継承されなければなりません。第1次から第7次の研究推進計画は、その時代の教育の流れや時代の要請を受け止め策定され、大きな成果を収めてきた。そして、第8次の研究推進計画の策定が間近に迫ってきている。単式と複式の学級が混在したり欠学年を抱える学校が増えたり、統合等による閉校が加速化する等、学校のおかれている現状は大きく変わろうとしている。第8次の長計では、へき地・複式教育の成果の継承と共に大きな変化に応じる策定がなされるものと思う。

### 《へき地教育の黎明》

戦前のへき地教育は、都市部の学校にくらべ貧弱な施設設備のため充実した教育を行うことが困難であった。昭和26年「小さい学校教育研究全国大会」が岐阜県で開催された。全国から集まった教師達の思いは「お互いに手を結び、力を合わせなければ日本のへき地教育の夜は明けない。」と言うことでした。しかし、全国組織を作る段になると、議論百出で容易に結論を出すことが出来ませんでした。その中で1人の女性教師は、「議論は大切である。しかし義務教育の機会均等にすら恵まれない子ども達を見過ごしてならない。」と述べ議論をまとめることに成功した。昭和27年帯広市とその周辺で「第1回全国僻地教育研究大会」が開かれた際、全国へき地教育研究連盟が結成されました。

### 《研究スタイルの確立》

北海道では、昭和23年に北海道単複教育研究連盟が誕生していましたが、全へき連の発足で組織化が更に進展しました。昭和45年には、第1次長計が策定され、その後、第7次長計まで策定されました。国の教育改革の理念、激変する社会でたくましく生きる子供の育成等を視野に入れた内容が盛り込まれました。また、成果や課題を明確にし次の長計の策定に引き継ぐスタイルの確立により北海道のへき地複式教育の発展と充実大きく寄与しました。

### 《根室大会の目指したもの》

さて、第55回を迎える根室大会は、第七次長計の実践検証期の最終年度に当たります。後志大会の成果と課題を踏まえ、北海道のへき地複式教育の一層の発展を図るために開催されるものであります。

私たちは、この大会を開催するに当たり3つの基本的なねらいを定めました。

- ①第7次長計の研究主題や研究内容に則し、実践検証を行う大会にする。
- ②根室管内の地域の特性を生かした教育活動や少人数の長所を生かす指導計画、指導法、評価の改善を図るなど根室のへき地複式教育の課題解決のための大会にする。
- ③へき地・小規模校の教師達が研究を進める中で子供の可能性を引き出す教育の営みのすばらしさを感じ取れる大会にする。

以上のねらいを踏まえ、根室管内で長年積み重ねてきた成果と課題を全道の実践課題と統合させ次年度の空知大会へとたすきを渡したいと考える。次に分科会会場校の研究主題と第七次長計の2分野8課題との関連について述べてみます。

「学校・学級経営分野」では、直接検証的課題として取り上げている学校は少ないすくないのですが、どの学校でも3特性を生かした教育活動がなされている。地域との連携を重視し豊かな心の育成に取り組んだり、より大きな集団での練り合いをさせるために全校集団や縦割り集団を組織し活動させる等の実践が見られました。今後学校がますます極小規模化する中では学校・学級経営分野の研究が重視されるのではないかと思います。

「学習指導の分野」では、ほぼ全ての課題が検証的課題として取り上げられている。特に課題7「学習指導過程の改善充実」を取り上げる学校が多くなっている。このことは、基礎的・基本的な学習内容の定着や子供ひとり一人を生かす間接指導の工夫や教師の指導・支援の重要性に着目し「自ら学ぶ子供」の育成に取り組む学校が多いと考えられる。

### 《終わりに》

根室の先生達のやる気と情熱に勇気づけられ大会の開催を迎えることが出来ました。各市町の実行委員会の先生達、貴重な実践と研究の成果を公開してくれた会場校の先生方、児童生徒のみなさん、そして物心両面に亘り暖かいご支援を頂いた関係各機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

